

人間性復活

第195号

人間性復活とは、物質偏重の現代文明の中にあつて、人間の精神生活を重んじて、その復権を図ることにはかならない。

同調社会から調和社会へ

一般社団法人 人間性復活運動本部 理事
つづきしげのぶ
都筑重信

日本は欧米に比べると、「同調圧力」(集団において多数派の言動に強制させる力)が強いと言われている。和を乱す人に対しては、「この人は何故皆に合わせられないのだろうか」「何故違うのだろうか」と思ったことはないだろうか。この「違う」と思うことが同調圧力の働きで、複数の人とコミュニケーションを取るときに、皆で意見や考え方を同調させようとする動きに繋がる。圧力という威圧的にも聞こえるが、私達はこの同調圧力の中でコミュニケーションをとり、お互いの言ったことに対して同調し合うことにより、コミュニケーションが成り立っている。同調しない相手は認められないし、場合によっては攻撃することもある。特

近年私達の多くがオンラインでのやり取りをするようになり、こうした傾向が多く見受けられると感じる。

私の経験から、オンラインによるコミュニケーションでは、対面で行う場合より同調圧力を強く感じる。オンラインでは回数や時間に限りがある会議の場で、ついつい結論を急ぎたくないことが多い。職場で一緒に働いているのならコミュニケーションの機会も多く、会議以外でも会話ができ、その場の空気感も察することができる。同調できなくてもあまり気にならない。ところがオンラインだと、その場で同調するか否かをはっきりさせたい心理が働き、知らず知らずのうちに同調圧力が強まっていたと思われる。

しかし、同調圧力も場合によってはプラスになることもあり、日本社会にも浸透している。例えば、職場では皆身なりを整えて、先輩の立ち振る舞いを見て後輩が学ぶことや、学校や地域の環境が守られていること、治安が良く、災害時などにも秩序正しい行動を発揮しているのも、厳しい世間の目があるからだ。しかし、これが行き過ぎると多様性を受け入れられない閉鎖的な社会が出来てしまう難しさもある。

私たちは、このようにプラス面とマイナス面のある『同調』から『調和』へと、発展するよう努力しなければならぬ。単なる「同調」には、相手に対する「思いやりや優しさ」が無く、差別やいじめを生んでしまう。しかし、皆とは違う意見や思想を持つ相手がいなくても、思いやりと優しさを以て接し、受け入れて建設的な話し合いができれば、それは「調和」へと繋がるのだ。「同調」と「調和」は似て非なる言葉

だが、孔子の論語に「君子は和して同せず小人は同じて和せず」とある。現代に照らし合わせると、「同調」する小人(器の小さい人)に対して、君子(器の大きい人)は個性を排除せず、多様性を活かす姿勢こそが「調和」に通じる道ではないだろうか。

実際に「和」の心を大切にしようとする、「個人よりも集団の秩序を大事にする」「グループや組織が乱れないように」という事だと思っていることが多いのではないだろうか。日本に來ている外国人を始め、日本人の中でも色々な思想や考え方をもっている人が社会や組織に存在している。我々は相手の立場に立って物事を考えられる視野の広さを持ち、少なくとも、皆と違うだけで非難したり排除するような、同調圧力をかける1人にならないように心掛け、まずは自分たちの職場や学校から実践して行きたい。

以上

・人の言葉とまなざし (下)

談】

佐賀清和学園理事長
佐賀新聞社名誉論説委員長

とみ よし けん た ろう
富 吉 賢 太 郎

早崎…世の中には、本当にこれだけ感心な方がいらつしやるのだなというお話でした。しかし、いいお話だったということだけで終わらせるのはあまりにももったいなくて、そこからの学びや今後の行動のヒントになればと思います。

人の心は見えるもの、というテーマをお聞きした時に、思い出したことがありました。以前テレビジョンで、「思いは見えないが思いやりは見える」というACジャパンの広告があったのです。心の中で思っているだけでは、誰も何を考えているかわからない。しかし、それが言葉や行動として出た時にはそれが見えるということ、それがまさしく人の言葉とまなざしということではないかなと思いました。

富吉…最初に、私が出会った感心な人たち(コラム)の永井博士と田代さんという方のことですが、伊万里ナシ発祥の地、伊万里市大川町の田代さんは、生前は中学校卒業以来、『長崎の鐘』の故永井隆博士の霊前に、ずっと続けて自分が作ったナシを送っていたという人です。

田代さんは、中学3年生の修学旅行の時に、永井博士の自宅を伊万里ナシを持ってお見舞いに訪ねたそうです。その後、卒業式前に永井博士からお礼状と短歌が届き、心を打たれたそうです。永井博士

との出会いは、戦争で早くに父を失い、中学卒業と同時に家業のナシ作りに励んだ自分の心の支えになったと。以来ずっと、自分が育てた自慢のナシ晩三吉を送り続けていたそうです。

田代さんは、中学卒業60周年の記念に、永井博士の霊前に報恩の言葉を捧げる旅を有志で計画して、そこで述べる追悼の言葉の添削を私に依頼されました。「先生を見舞い、晩三吉を届けてからちょうど60年になります。」と始まる追悼の言葉は、「原爆は地球上で長崎が最後であつてほしい」と言われていた先生の言葉を決して忘れません」と結ばれていました。こんな尊い原稿を私ごときが直せるわけがありません。「このまま清書して霊前で読み上げてください」と伝えて涙しました。

このように、感謝と恩を忘れない人がすぐそばにいるということですね。

早崎…60年もの間、恩を忘れないというのはすごいですね。礼節という言葉があります、礼節というのは人に対する感謝を忘れない、相手に対して敬いの気持ちを持ち続けるということですね。人間性復活運動の行動指針に、慈愛、正義、礼節、知識、誠実、があります。これは、もともとは中国の儒教の五常、すなわち仁、義、礼、智、信ということをもう少

人の心は見えるもの・

【対

曹洞宗 道虎山 静元寺 住職
医学博士

はや さき とも ゆき
早 崎 知 幸

し日本人に分かりやすく表現したもので
す。人間性とは何か、というひとつの定
義づけがこの5つの言葉ではないかなと
思います。礼節に関連して、清和高校で
伺ったことを思い出しました。

富吉・先日、知らない人からメールが来
て、清和学園の陸上部の皆さんへのお礼
の内容だったのです。メールをくれた人
は、八幡東生涯学習センターの館長さん
でした。実は清和高校の生徒が出場して
いた北九州での女子駅伝大会が行われた
時に、八幡東生涯学習センターが中継所
になっていたそうです。その館長さんが、
大会が終わってから、いっぱい選手が使
われたから館内のトイレも汚れているだ
ろうなと思って見まわったら、ビニール
の袋にトイレトペーパーと一緒に、「清
和高校陸上部です。トイレを使わせても
らって有難うございました。お蔭様でい
い試合ができました」というメッセージ
があったそうです。試合でとても緊張し
ているなかで、ちゃんと後始末をして、
使ったものへの感謝を伝えていくという
ことに驚いて、清和高校つてどういうと
ころだろうと思いいメールをくれたそう
です。

私が驚いたのは、生徒たちが人知れず
自主的にやっていたということです。顧
問の先生も知らなかった。私は嬉しくなっ

て、褒めてやりました。

早崎・ただただお世話になったので、感
謝の気持ちを残していった生徒たち。僧
侶の立場で見ると、世の中や誰かのため
によいことをすることを徳を積むとい
います。そのなかで、誰からも気づかれ
ることなく褒められることなく人知れず積
む徳を陰徳といって、神仏の世界では特
に尊いと考えるのです。

富吉・成績は15位だったけれど、少なく
とも八幡東の生涯学習センターの中では、
佐賀の清和高校の子供たちが1番だっ
たねと話していたと言われてとても嬉しく
思いました。

早崎・誰かのために人知れず行うことは
陰徳でもありますし、物質的な豊かさだ
けではなく、心の豊かさというのが本来
の人間が他の動物とは違ったものである
ということの証ではないかなと思います。

今日、ご紹介くださった方々は本当に
素晴らしいと思います。田代さんの
ように60年間恩を返し続けるということ
はなかなか真似できないと思います。何
か我々でもできることはないでしょ
うか？

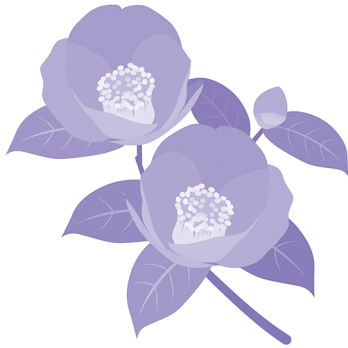
富吉・確かに感心な人たちというのは、
私たちにいろいろ学ばせてくれますが、
自分でできることもあるのです。例え

ばゴミ出しひとつにしても、先日ルールを守らなかつた人がいたのですが、暮らしの中できちんとルールを守るといふことぐらひは誰だつてできるじゃないですか。何か困つてゐる年配の方に出会つたら声をかけるとか、これくらいだつたら自分にもできるといふことが誰にだつてあるはずです。

早崎…ちよつとしたことであれば、できることが必ずあるはずですよ。その小さいことの積み重ねが人間性を豊かにし、人間性を高めて、お互いに生きやすくするための知恵であるのかなと思います。

(令和7年2月12日 佐賀支所主催 人間性復活運動講演会：第2部より抜粋)

以上



特別養護老人ホーム
福寿園 みなみ野
全室個室のユニット型
特別養護老人ホーム



2018年4月1日オープン

○ご利用条件○

入所 ・介護保険認定調査により、要介護3～5の認定を受けられた方(要介護1・2の方でも、やむを得ない事情により特例的に入所可能な場合があります。)

- ・常時介護が必要で在宅生活が困難な方。
- ・入院加療を必要としない方。

短期入所 ・介護保険認定調査により、要支援1～2、要介護1～5の認定を受けられた方。

入所定員 100名 短期入所定員 4名

特別養護老人ホーム **福寿園 みなみ野**

〒192-0916 東京都八王子市みなみ野 6-21-1
TEL：042-635-5015 (代表) FAX：042-635-5016



優しい心 丁寧な言葉

ご利用者様お一人お一人の人間性を尊重した、きめ細かなケアをモットーに、皆さまのご利用をスタッフ一同お待ちしております。

施設見学は随時お受けしています。お気軽にお電話ください。☎ 042-635-5015



人間性復活

2025年12月1日発行
第50巻第4号(通刊195号)
編集者 星 博信

発行所 一般社団法人 人間性復活運動本部
〒150-0044 東京都渋谷区円山町 24番 6号
神泉共栄ビル 4F
mail : info@ningensei.or.jp
https://www.ningensei.or.jp/
「人間性復活」は特許庁に商標登録されています。
登録番号：第4752840 (平成26年7月29日再取得)